

49 祭岡山先生詞（東京法学院生徒総代・前島密・井上毅）

〔法学新報〕第三九号 明治二十七年六月二十八日

○祭岡山先生詞

蜀魂血ニ啼テ万緑影暗ク愁烟抛淡トシテ人ノ気魄ヲ掠ム吾東京
法学院講師岡山先生ハ此時ヲ長逝セラレ本日祭葬ノ式ニ会フ痛
悼何ンソ堪エン

先生資性温雅宣行着実夙トニ艱難ヲ経テ大学ヲ終ヘ令聞日ニ高
シ然レトモ勤メテ虚飾ヲ斥ケ実用ヲ尊ヒ苟モ名ノ事ニ副ハサル
ヲ辱ツ蘊蓄寛洪期スル所アルニアラスンハ曷ンソ能クスノ如ク
ナランヤ是ヲ以テ威名隆々後進ノ師表ト為リ法律界ノ泰斗ト仰
カレ天下咸ナ望ヲ囑ス特ニ先生ハ吾校ノ創立ニ尽瘁セラレ爾来
切々トシテ学生ノ薰陶ヲ怠ラス摯実ノ論議純朴ノ態度能ク学生
ヲシテ実理ノ妙要ヲ了悟セシメ其徳風ヲ景慕セシム是吾校ノ益
盛大ヲ極メ惹テ法学ノ振起ヲ致セシ所由ナリ蓋シ吾邦法学ノ
隆替ハ一二重キヲ先生ニ繫ク然ルニ天無情先生二年ヲ仮サス今
ヤ溘焉トシテ籍ヲ易エラル、ニ至ル吾等後進ノ学生タルモノ豈
ニ能ク哀泣ノ堪ユル所ナランヤ嗚呼先生ハ吾等学業ノ未タ幼稚
ナルニ当リ遽カニ白雲ニ化シテ帝郷ニ去ル宛モ暗夜標灯ヲ失フ

如ク茫然トシテ其方向ニ迷フ比日風物ノ常ナラサルハ天地モ先生ノ長去ヲ悲シテ嗚咽スルカ如ク吾等学生ノ哭涙ハ潜々トシテ霖雨ノ長キニ似タリ伏シテ先生ノ靈ヲ祭ラント欲スレハ萬感胸ニ乱レテ哀辭ノ措ク所ヲ知ラス

嗚嚙先生ハ竟ニ逝矣霸國悵トシテ已矣然レトモ在時経営ノ慘憺タル功績ハ永ク蔚勃トシテ英名ト共ニ後昆ヲ照サン尚クハ先生ノ靈夫饗之

明治廿七年六月十七日

東京法学院生徒惣代

新井要太郎敬捧

花樹春来タ央ナラスシテ狂風幹ヲ折リ嘉穀將ニ秋ナラントシテ陰雨地ニ委ヌ黯澹タル天地寂寞タル光景嗚呼造物ノ無情ナル塵世ノ常無キ何ソ斯ノ如ク其レ甚シキヤ余ヤ君ノ訃音ニ接ス直チニ趨テ遺骸ヲ拝ス温容依然微笑ヲ銜テ眠ルカ如ク宛トシテ君カ生前ニ在リテ敦厚哀和然物ニ対シ人ニ接スルノ状ヲ見ル而テ今ハ則チ空ク一座ノ靈位ノミ夢邪幻邪果テ現ナル邪比來時事甚タ多シ此有為ノ人ニシテ此有為ノ日ニ亡フ豈天下国家ノ為メニ痛惜セサルヘケンヤ黯澹タル天地寂寞タル光景花樹幹折レ嘉穀地ニ委ヌ嗚呼哀哉

明治廿七年六月十七日

前島密

稽首再拜

予の病を這子の海辺に養ひし折に岡山君と始めて知る人とはな
りぬ同病相憐むの諺にもれすして初のほとは互に病の有様を言

ひもし聞きもして日を送りしか何時しか又学ひの道の物語となり或時は論ひ或時は争ひなとして居には長き夏の日にも病の躬に在るを忘るゝことさへありぬ此れそ病の友やかて学ひの友とこそいふへけれ

先たつも後るゝも世の習とはいひなからおのれも人もきのふけふとは思はさりしに今は老たる身の歳少き友を送ることゝはなりぬるそはかなきことの極みなる

岡山君はねもころなる人にてありし法学に明く偏執なき人にてありしあなにくてそ人は惜まるゝなり予は岡山君を哀み併せて岡山君を惜むものなり

明治廿七年六月十七日

知友 井上毅